

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度の取組状況について

第2期総合戦略を着実に推進するため、PDCAサイクルの考えに基づき、成果指標の達成状況について令和3年度の評価を実施

- 38の指標のうち、25の指標が「上昇」(65.8%)
 - 1の指標が「横ばい」(2.6%)
 - 12の指標が「低下」(31.6%)
- うち11の指標が新型コロナウイルス感染症の影響(28.9%)

《評価基準》

「上昇」基準値に対し上昇

「低下」基準値に対し低下

「横ばい」基準値に対し横ばい(変動率±0.5%の範囲内)

基本目標	上昇	横ばい	低下		合計
			コロナ	その他	
1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	5	1	4	0	10
2 岡山市への新しいひとの流れをつくる	3	0	1	0	4
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	5	0	0	1	6
4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する	12	0	6	0	18
計	25	1	11	1	38

※第2期総合戦略に係る43の指標のうち、指標の調査周期に当たらず、実績値の把握ができない指標5つを除く
※再掲12指標を含む

(参考) 地方創生推進交付金活用事業等に係る検証概要

令和3年度目標値達成 (35.7%)

・・・5指標 / 14指標

➤ 目標が達成できなかった9指標のうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたもの6指標(66.7%)

＜推進交付金活用事業＞	達成状況
まちの持続可能な開発を実現する真の生涯活躍のまちづくり	未達成 / 3指標
アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト	2指標達成 / 4指標
スタートアップ&学生チャレンジ支援による「おかやまのイノベーション推進プロジェクト」	1指標達成 / 2指標
西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト	1指標達成 / 3指標

＜拠点整備交付金活用事業＞	達成状況
造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点プロジェクト	1指標達成 / 1指標
元気です“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～	未達成 / 1指標

地方創生推進交付金活用事業等 効果検証

(1) 地方創生推進交付金活用事業

事業名	まちの持続可能な開発を実現する真の生涯活躍のまちづくり
担当局	保健福祉局

事業概要

実施年度	H30年度～R4年度（5カ年）				
単位：円	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
歳出（事業費）	57,710,854	161,314,807	134,740,085	122,463,810	
歳入（交付金）	(28,802,637)	(80,657,403)	(67,370,042)	(61,231,905)	

全体事業の概要	<p>将来の疾病リスクを把握し、一人一人に合った生活習慣改善メニューの提示を可能にするため、AIを活用してビッグデータを解析し、保健指導に用いる「AIを活用した健康見える化事業」を実施する。</p> <p>また、生活習慣を改善するメニューを豊富なものとし、市民の健康な生活を習慣化するため、身近に健康づくりが行えるフィットネスや飲食店等のヘルスクア関連企業とともに新たなサービスの開発と、サービスを利用することによりインセンティブ付与の仕組みを「SIBを活用したヘルスクア推進事業」で構築する。</p> <p>さらに、地域活動や企業活動の担い手の確保のため、高齢者等の就労課題がある人について、その人の状態に合わせた適切な就労支援機関につなげる「SIBを活用した生涯活躍就労支援事業」を行う。</p>
事業内容	<p>○ AIを活用した健康見える化事業 国民健康保険被保険者の健診データ等をAIで解析し、将来的な疾病リスクを見える化したうえで、一人ひとりに適した具体的な生活改善メニューを提示し、より効果的な保健指導を実施する。</p> <p>○ SIBを活用したヘルスクア推進事業 35歳以上の岡山市民等を対象とし、「運動」「栄養・食生活」「社会参加」の取組についてインセンティブを付与することで、健康づくり無関心層を含めた多くの市民の健康づくりへの参加を促し、健康状態の改善と医療費の適正化を図る。</p> <p>○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 民間就労支援機関と社会福祉協議会が連携し、高齢者等の就労支援や定着支援を行う。雇用先企業等に対しては、高齢者等の雇用に関する意識改革や労働条件の見直しを求めていく。</p>

KPIの進捗状況

指標名	医療費抑制効果(千円)					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
目標値	-	57,600	136,800	255,600	378,000	
実績値	-	86,379	94,643	調査中		
指標名	生活習慣の改善に取り組んでいる人の数（人）					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
目標値	-	6,000	7,000	9,000	-	
実績値	-	2,658	1,398	1,627		
指標名	ヘルスクア関連企業として生活改善メニューを提供している企業の数（社）					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
目標値	20	25	32	42	-	
実績値	21	41	6	1		
指標名	就労・社会参加につなげた高齢者等の人数（人）					
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
目標値	210	590	970	1,350	1,730	
実績値	271	403	751	953		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に相当程度効果があった</p> <p>○ AIを活用した健康見える化事業 AIによって判明した将来の健康リスクを見える化し、アプリによって日々の取組を支援することで、生活習慣改善に向けた行動変容を促すことができた。</p> <p>○ SIBを活用したヘルスクア推進事業 市民や従業員の健康に対する企業の意識の変容と、新たなサービスやメニューの開発等が促され、市民の身近に健康になる環境整備が進んだ。</p> <p>○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 企業への高齢者等の雇用に関する意識改革や労働条件の見直しについての理解促進は順調に進み、高齢者のニーズにあった就労のマッチング支援を行うことができた。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>○ AIを活用した健康見える化事業 他保険者等への利用拡大を図るとともに、アプリ利用後の健診結果等を分析し、事業効果を検証する。</p> <p>○ SIBを活用したヘルスクア推進事業 多くの市民の事業参加を促すために、引き続き市民の身近に健康的なサービスを受けられる環境を整備し、より魅力ある事業とする。</p> <p>○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 利用登録者のうち、ボランティアに比べ就労ニーズが当初の見込みより高く、1人当たりの支援時間がより多い就労に時間を割いたため、就労者数は過去最高の実績だったが、全体の人数としては伸び悩んだ。引き続き、利用登録者のニーズに合わせて、社会福祉協議会のボランティアセンター等関係機関と連携しながら、より効率的な支援を行っていく。</p>

事業名	スタートアップ&学生チャレンジ支援による「おかやまイノベーション推進プロジェクト」
担当局	産業観光局、政策局

事業概要

実施年度	R元年度～R3年度（3カ年）		
単位：円	R1年度	R2年度	R3年度
歳出（事業費）	20,678,724	17,470,994	22,675,158円
歳入（交付金）	(9,391,463)	(7,441,657)	(10,457,202円)

全体事業の概要	<p>市内等で学ぶ外国人留学生を含む大学生等が、地域住民や地元企業等と協働して地域課題の解決に向けて取組む活動や、大学等で学んだスキルを活用したビジネスの起業にチャレンジすることを促進するとともに、地元企業等が中心となり地域一丸で大学生等のチャレンジを応援する環境づくりを進めることで、大学生等の地域への興味・愛着と地元企業への関心・理解を高め、もって学生の地元定着向上を図る。</p> <p>またイノベーションは多様な人材が交流することにより相互に誘発され成長すると言われる中、西日本の主要都市である岡山市が交流を起点にイノベーションを次々に生み出す都市へ成長していく役割を担うため、起業を目指す多様な人材が集う新たな拠点を設置し、起業に関するコミュニティとネットワークを形成することで岡山市から起業創業の推進を図る。</p>
事業内容	<p>○学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生イノベーションチャレンジ推進補助制度の創設 ・専門コーディネータの配置 ・「おかやまスタートアップ支援拠点」の活用 <p>○おかやま・スタートアップ支援推進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかやまスタートアップ支援拠点の設置・運営 ・拠点コーディネーターの配置 ・拠点直営プロジェクトの実施

KPIの進捗状況

指標名	学生イノベーションチャレンジの参加学生の地元就職率と市内学生の地元就職率平均値を比較した値（％）			
	R1年度	R2年度	R3年度	
目標値	110	120	130	
実績値	-	-	-	
指標名	岡山市内で開催の起業コンテスト応募件数（件）			
	R1年度	R2年度	R3年度	
目標値	168	178	188	
実績値	85	92	115	
指標名	学生イノベーションチャレンジの参加学生数			
	R1年度	R2年度	R3年度	
目標値	120	140	160	
実績値	153	-	173	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <p>○おかやま・スタートアップ支援推進プロジェクト コンテストへの参加数は新型コロナウイルス感染症の影響から目標値には達成していないが、拠点で実施されるイベントについては、感染状況が落ち着いた時期には多くの参加者で賑わい、スタートアップへの関心が高まっていると思われる。また、令和2年度からはイベントの開催に加え、「アクセラレーションプログラム」の成果発表として拠点でのビジネスプランコンテストを開催した。</p> <p>○学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト 参加者数はKPIを達成しており、参加する大学等も増えており、多種多様な多くの学生等が、地元企業等と連携しながら、地域課題の解決やビジネスへのチャレンジが出来る環境づくりが広がっており、地方創生に効果があった。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ支援に繋がるイベントやプログラムの開催により起業・創業に関心を持つ層の裾野の拡大に一定程度の効果があったものと考えられる。 <p>今後は起業家の源泉となる大学、高校等へアプローチし、行動力のある学生にスタートアップに触れてもらうプログラムを行うことで地方発のスタートアップを数多く輩出できるよう取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生イノベーションチャレンジについては、学生等の活動地域を連携中枢都市圏に広げ、圏域全体の地域課題の解決等にもチャレンジできる仕組みとし、圏域全体での若者定着に繋げるよう取り組んでいく。

事業名	西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト
担当局	都市整備局

事業概要

実施年度	R3年度～R5年度（3カ年）		
単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	10,094,957円		
歳入（交付金）	(5,047,478円)		

全体事業の概要	<p>○岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置しており、道路・鉄道・空路等の広域交通の結節点であり、中枢中核都市としてダム機能を担っている。</p> <p>○岡山県毎月流動人口調査の結果では、岡山市の社会動態（日本人）は、2017年までは転入超過であったが、2018年以降転出超過になっており（2019年421人の転出超過）、岡山市の人口ビジョンによれば、今後も人口減少は進んでいくことが見込まれる。人口減少が進むことにより、都心の賑わいの低下や地域経済の縮小が懸念されており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により、まちなかの人出はさらに減少しており、都心の賑わいづくりにも新しい生活様式への対応が求められている。</p> <p>○岡山市の代表交通手段をみると、昭和46年から平成24年の約40年間で、公共交通機関の利用や徒歩は著しく減少し、自動車利用が2.2倍に増加している。自動車の分担率は60%と全国的にも高水準となっており、自動車に過度に依存した状況にあり、滞留につながらないことから、まちなかの賑わいの低下につながっている。</p>
事業内容	<p>①西川エリアマネジメント事業</p> <p>○「安全で安心な住み続けられる街」へのルール作りや地域連携の推進（経済活動基盤強化）</p> <p>○エリアブランドのイメージを醸成する広報活動（情報発信）</p> <p>○新たな公園活用とにぎわいの創出（イベント）</p> <p>○都市再生推進法人の指定を目指し、まちづくり活動実績を積み上げるとともに、各種事業等の実施による収益確保の仕組みや運営体制の整備を図る。</p> <p>②歩行者天国等イベントの実施</p> <p>③ライトアップイベント 西川夏あかり</p>

KPIの進捗状況

指標名	まちづくりやイベントへのボランティア参加人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	10	20	30
実績値	13		
指標名	官民協働による公共空間を活用したイベント回数(回)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	40	50	60
実績値	30		
指標名	総事業費に占める自己資金や協賛金等の割合(%)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	90.8	88.8	85.8
実績値	94.1		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント開催は制限され、それに伴いエリアマネジメント団体の収益も減少となった。個別の事業の検証については以下のとおり</p> <p>○西川エリアマネジメント事業</p> <p>コロナウイルスの影響を受け予定していた収益事業やイベントは中止となったが、地域の町内会や自治防災会との共催による防災イベントや学生企画によるフリーペーパーの作成など地域を巻き込んだ事業を行うことができた。また、これまでのまちづくりの活動を評価し、都市再生推進法人(R4.3.8)に指定した。</p> <p>○歩行者天国等イベントの開催</p> <p>新型コロナウイルスの影響により歩行者天国は未開催。再開に向けて関係団体との協議を継続していく中で、イベントへの参加やまちづくり活動に興味を持った学生を中心としたボランティア団体「N-ravi」が組織された。</p> <p>○ライトアップイベント 西川夏あかりの開催</p> <p>新型コロナウイルスの影響により開催期間が短縮となったが開催期間中は新しい夏の夜のイベントとして多くの来場者で賑わった。また、ライトアップイベントに合わせた音楽や飲食イベントも計画されるなど、イベントと連携した公園の活用の提案もあった。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>新型コロナウイルスの影響により歩行者天国を含む多くのイベントが中止となった。中止がなければ目標値を上回るイベント開催が予定されており、引き続き支援を続けていく。</p> <p>エリアマネジメント団体として、都市再生推進法人に指定した「一般社団法人ぶらっと西川」を中心に地域と連携したイベントの開催や情報発信を通じて、地域コミュニティの醸成やプレイヤーの育成を行うとともに収益確保や運営体制整備の支援を継続する。</p>

事業名	アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト
担当局	市民協働局、産業観光局

事業概要

実施年度	R3年度～R5年度（3カ年）		
単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	63,038,706		
歳入（交付金）	(30,549,853)		

全体事業の概要	<p>①岡山市のことを知ってもらい、移住先として選ばれるための裾野を広げ、②移住するために最も重要な「しごと」を確実に確保するための支援を行い、③移住後の不安を解消するための支援まで、移住者それぞれに寄り添った支援を実施する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響でテレワーク等の働き方の変化に対応し、④テレワーカー用お試し住宅、サテライトオフィス等の企業誘致を進める。</p> <p>これらの事業を確実に実施することで、地方移住への関心の高まりを逃すことなく移住者確保につなげる。</p>
事業内容	<p>1. 移住プロモーション</p> <p>本事業では、最新のデジタルマーケティング手法を活用し、ターゲットや地域、発信時間を定めて、ターゲット毎に異なるPR動画や情報を発信する。また、AI等を活用し、検索履歴から分析した各個人のニーズに応じた移住情報を、プッシュ型で発信することで、移住検討層をターゲットにした移住情報の発信も行う。</p> <p>また、産業振興部局とも連携しながら、テレワーク推進関係の支援メニューや、サテライトオフィス設置、創業支援関係等の情報も発信することで、起業を考えている方や、現在の仕事を見つけながら、地方で働くことを希望する方、または、地方にサテライトオフィス等の設置を検討している企業へのアプローチも行う。</p> <p>2. おかやまぐらし相談センター</p> <p>前身事業では、東京に「移住相談窓口」は設置していたが、リーフレット等を活用した一般的な相談対応、相談先の紹介のみにとどまっておらず、個別具体的な相談には対応できていなかった。</p> <p>本事業では、東京と大阪に「おかやまぐらし相談センター」を開設し、移住希望者の要望が多かった「仕事さがし」「職業斡旋」について、職業安定法に基づく有料職業紹介事業の許可を受けた事業者、運営等を委託し、移住希望者のニーズ、適性等から、「おかやまぐらし相談センター」が掘り起こした企業とのマッチング、企業との調整（面接日程等）、履歴書の作成ポイント等、就職に至るまでの寄り添い支援を行い、移住先での確実な就職につなげる。</p> <p>これにより、移住先でのしごとの不安を解消し、さらには、移住後のしごとのミスマッチを防ぐことが可能となり、移住定住促進につながる。さらに、イベントやセミナーを実施し、積極的に東京圏の大学に足を運び、UIターン就職を働きかけることで、東京圏等に在住の若者の地方移住を強力に進める。</p> <p>また、岡山市内にも拠点を設け、就職先の地元企業を独自に開拓し、移住希望者のニーズに沿った企業を紹介することが出来るような仕組みをつくる（数百社以上の地元企業を独自に就労先企業として登録することを想定している）。</p> <p>このように、複数拠点を整備し、大規模なUIターン就職支援を実施する事業は、政令指定都市では類をみない取組であり、これらの取組を実施することで、今まで、希望するしごとが見つからないため移住を諦めていた方や、移住やUIターンに興味になかった若者の地方移住を進めることが出来る。</p> <p>3. サテライトオフィス等の企業立地支援</p> <p>東京圏・大阪圏での企業訪問や展示会出展等を行い、本市の立地特性や補助制度等を紹介することで、企業の立地を支援する。</p> <p>4. オンライン移住相談</p> <p>移住相談としては、東京の「移住相談窓口」、岡山市役所内の相談窓口、年3回の移住相談会に対応していたが、場所や時間等の制約もあり相談者数は伸び悩んでいた。オンライン移住相談を実施することで、いつでも、どこからでも相談者は相談可能となることで、移住相談数の増加が期待できる。</p> <p>また、岡山市役所内にオンライン相談ができる通信環境を整備し、市職員、地元の移住支援団体、その他専門機関等、相談内容に応じ</p>

KPIの進捗状況

指標名	移住・定住支援により移住した人数(人)			
	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	70	75	80	
実績値	71			
指標名	おかやまぐらし相談センターの支援により就職した人数(人)			
	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	30	35	40	
実績値	3			
指標名	おかやまぐらし相談センターへの求人登録企業数			
	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	220	110	110	
実績値	206			
指標名	岡山移住プロモーションの動画再生回数(回)			
	R3年度	R4年度	R5年度	
目標値	1,000,000	500,000	500,000	
実績値	1,447,419			

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <p>○移住プロモーションについては、動画再生回数の目標値を達成し、移住関心層への情報発信を行うことができた。</p> <p>○おかやまぐらし相談センターについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人流の抑制により目標値を下回ったが、年度の後半から相談件数は増加傾向となっており、認知が進んでいると考えている。</p> <p>○オンライン移住相談では、場所や時間の制約等がなく、気軽に相談できるため、遠方からの相談者が出てきた。</p> <p>○交流会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オンラインでの開催も検討していたが、対面での開催ができ、先輩移住者との交流により、移住者の不安を取り除く場となった。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>今後の方針の理由</p> <p>○プロモーション動画については、ある程度長期間活用することを想定した汎用性の高いものを作成しているため、効果的な情報発信を行っていく。</p> <p>○東京や大阪で、移住相談の対応だけでなく、就職支援ができる相談窓口として「おかやまぐらし相談センター」の認知が進んでおり、今後も相談件数が増えることが期待できる。</p> <p>○オンライン移住相談や移住者交流会についても、移住希望者や移住者が気軽に不安を取り除ける場を継続して提供することにより、移住・定住を促進する。</p> <p>○引き続き、企業訪問や展示会出展等を通じ、企業誘致活動を実施していく。</p>

事業名	造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点プロジェクト
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R元年度		
単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	54,614,710		
歳入（交付金）	(25,375,000)		

全体事業の概要	造山古墳ビジターセンターを整備することにより、造山古墳をはじめとする吉備路全体の魅力向上や周遊観光の促進を図る。また、校外学習としての活用を推進し、より多くの子どもの地域文化への理解、郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を図るとともに、文化財である造山古墳の歴史的・文化的価値や魅力を積極的に発信し、愛護意識の醸成を図る。
事業内容	<p>(1) 広域観光の推進 ビジターセンターを新設し、造山古墳はもとより周辺の日本遺産構成文化財や観光施設についても併せて情報発信するとともに、日本遺産関連事業とも連携し、吉備路の広域周遊観光の促進を図る。</p> <p>(2) 地元定着の促進 校外学習として利用する小学校をより一層拡大することに努め、子どもたちの地域文化に対する理解や郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を目指す</p> <p>(3) 文化財としての価値の周知と愛護意識の醸成 地元観光ボランティアによる普及活動に加えて、同センターにおいて造山古墳の概要や歴史的背景などを積極的に情報発信し、同古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知を図るとともに、愛護意識の醸成を推進する。</p>

KPIの進捗状況

指標名	造山古墳ビジターセンター来館者数（人）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	13,000	13,260	13,530	13,870	14,300
実績値	8,700	15,787	15,880		

指標名	観光客入込客数（吉備路）（千人）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	990	1,000	1,015	1,030	1,045
実績値	960	375	189		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に非常に効果的であった</p> <p>令和2年3月末に造山古墳ビジターセンター整備が完了し、令和2年4月にオープンした。令和2年以降、観光客の動向が新型コロナウイルス感染症の影響を受けれる中においても、来館者数が好調に推移するなど成果を上げている。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>○今後の方針の理由 今後も造山古墳ビジターセンターを活用した造山古墳や周辺観光施設の情報発信に取り組む。 地元の観光ボランティア団体等と連携しながら造山古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知を図る。</p>

事業名 元気で“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～

担当局 都市整備局

事業概要

実施年度	R元年度
------	------

単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	71,599,000		
歳入（交付金）	(28,715,284)		

全体事業の概要	岡山市営駅南駐車場において、本市の玄関口にふさわしい待合所を整備し、更なる観光誘客の推進を目指す。また、豪雨災害からの復興に向けて、建設にはC L T材を用い岡山県産材の普及促進による地場産業の活性化を図るとともに、太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用と「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復を目指す。
事業内容	(1) 受入体制の強化と観光誘客の推進 本市の玄関口にふさわしい木のぬくもりあふれる待合所を整備し、受入体制の強化を図るとともに、市内観光関連団体等によるリニューアルされた本施設の情報提供や日本遺産関連事業におけるモニターツアー等での利用促進を図り、更なる観光誘客の推進を目指す。 (2) 豪雨災害からの復興に向けた地域産業の活性化 日本遺産の岡山県真庭市（岡山連携中枢都市圏連携市）が普及を推進しているC L T（直交集成板）を用い建築することにより、C L T建築物の実物に触れる機会を創出するとともに、C L Tの概要、魅力等を掲示し、岡山県産材の利用促進を図る。 (3) 豪雨災害からの復興に向けた「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復 太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、「晴れの国 おかやま」のP Rを行い、本市のイメージ回復を図る。

KPIの進捗状況

指標名	駅南駐車場利用台数（大型バス）（台）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	16,252	16,672	17,102	17,542	17,992
実績値	14,260	7,393	8,399		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に効果がなかった 令和元年度は、整備工事を実施した年度であり、事業効果は不明（令和2年3月末完成）。工事スペースとしてバスの駐車枠を長期間減らしたこともあり、例年より大型バス利用率が減少した。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年度以降は大型バスの利用が減少したため、事業効果は不明。
新年度事業見直し方針等	事業の継続 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、令和4年度以降の実績により、事業効果を検証するため。